



おすすめの一冊

岩波明 『天才と発達障害』

歴

史に名を残した、私たちがよく耳にする有名な小説家、音楽家、学者、画家たちは、精神医学者の目から見ると、特殊な才能の持ち主であり、その特性であるこだわりの強さは、実は「発達障害」によるものであるという見解である。例えば、夏目漱石、芥川龍之介、中原中也、野口英世、南方熊楠、山下清、ダーウィン、モーツァルト、テネシー・ウィリアムズ、ヴィヴァン・リー等々である。

著者の岩波明教授は東京大学医学部卒業後、都立松沢病院での臨床経験を経て、2012年より昭和大学医学部精神医学講座の主任教授を務めている。ベストセラーになった『発達障害』（文春新書）をはじめ多数の著書がある。本書は以下の6章より構成される。第1章「独創と多動のADHD」、第2章「空気が読めないASDの天才たち」、第3章「創造の謎とトリックスター」、第4章「うつつに愛された才能」第5章「統合失調症の創造と破壊」、

文春新書
1212

天才と発達障害

岩波 明



文藝春秋

天才と発達障害
岩波 明
文春新書

第6章「誰が才能を殺すのか?」である。千円札の肖像画でも有名な野口英世は、黄熱病の研究や幼少期に囲炉裏に落ちて大やけどを負ったことでも知られている。彼の過剰なまでの集中力、衝動的な浪費癖と生活力の無さは、ADHD（注意欠如多動性障害）の特性を示しているという。

ASD（自閉症スペクトラム障害）

の特徴は、対人関係、コミュニケーションの障害ゆえに孤立しやすく、他人の表情やニュアンスを汲み取れない、いわゆる「空気が読めない」人。例えば放浪の画家・山下清であり、ASDの特異なタイプであるサヴァン症候群としては、ダスティン・ Hoffman 演じる映画『レインマン』の主人公などがあげられる。

『誰がために鐘は鳴る』や『老人と海』で有名な小説家アーネスト・ヘミングウェイは、晩年に精神状態の変調（生氣的抑うつ症状）を来し、自殺している。その理由は、作品が書けなくなり収入の道が断たれ税金が払えなくなる不安と恐怖によるもので、FBIに四六時中尾行されているという妄想に誘発されたものであるという。彼の父、妹や弟たちも自殺している。

本書によると、真の天才は決して別世界の住人ではなく、優等生というよりは不穏分子であり、一般的な社会生活に馴染めずに孤立しやすい。彼らの才能は周囲になかなか理解されないため、むしろ扱いにくい異物として目を背けられる存在となり得るという。わが国における学校での「いじめ」の問題や「不登校」の子どもたちの問題も発達障害と大いに関係があるそう、画一性や同調性を求める管理的な日本の学校教育制度に対して著者は警鐘を鳴らしている。

清水 英佑

しみず ひですけ

東京慈恵会医科大学 名誉教授

1967年東京慈恵会医科大学卒業。産業医学振興財団理事長。中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター技術顧問。